

「たちまち、あっという間に、またたく間に」の 意味分析

—ベースとプロフィールの観点から—

李 澤 熊

キーワード：認知言語学、ベース、プロフィール、副詞、類義語

1. はじめに

本稿では、類義関係にある副詞を考察対象とし、認知言語学の枠組みから、相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。考察対象とする語は、時間の早さにかかわる副詞「たちまち」「あっという間に」「またたく間に」の3語である。

ここで、本稿の構成について簡単に述べておく。

まず、2. では本稿で考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山（2005）を取りあげる。初山（2005）の研究は類義表現を認知言語学的観点から定義・分類したものである。

次に3. では先行研究を踏まえ、「たちまち」「あっという間に」「またたく間に」のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

最後の4. は本稿のまとめである。

2. 前提となる理論

分析に入る前に、本節では、考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山（2005）を取り上げる。

初山（2005:579-583）の研究は、類義表現の意味の異なりの諸相を、認知言語学の枠組みから明らかにしたものである。以下、その内容を概観する。

まず、類義表現（類義語・類義句・類義文を含む）をプロトタイプカテゴリー（注1）と考え、プロトタイプの類義表現を「指示対象・指示範囲（プロフィール）が同一である複数の表現（プロトタイプの類義文:真理条件的意味が同一である複数の文）」と定義し、次のような例をあげている。

例) あした／みょうにち、盲腸（炎）／虫垂炎

花子が太郎をなぐった。／太郎が花子になぐられた。

また、「この定義に基づけば、類義表現の意味の違いは、必然的に、同一の事物・事態に対して異なる捉え方・解釈 (construal) をすることができるという人間が有する認知能力に還元できることになる」としている。

さらに、プロトタイプから拡張した (非プロトタイプの) 類義表現を次のように定義している。

類義表現: 同一の対象を示しうる (指す場合がある) 複数の表現

例) 動物/犬、木/松 [上位語と下位語の関係]

門のところに誰からいる。/門の前に怪しい男が立っている。[描写の精密さの異なる文]

この花は日本語で「サクラ」と言う/呼ぶ。[一方の語 (句) の複数の意味のうち
の1つが、他方の語の意味 (の1つ) と同一]

さて、初山 (2005) は、以上の事物・事態に対する様々な捉え方 (の違い) の観点から、類義表現を大きく 10 に分類している。以下、主なものを示す。

・「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる (焦点化・前景化の違い)」

→ 「やっと/ようやく」、「A しながら B/B しながら A」

・「プロファイルは同一であるが、ベースは異なる」

→ 「land[←→ sea]/ground[←→ air]」、「陸上[←→海上]/地上[←→空中・地下]」

・「視点の違い」

→ 「shore[視点が水上]/coast[視点が陸上]」、「A さんが名古屋から東京に行った。

/A さんが名古屋から東京に来た。」

本稿で考察する「たちまち」「あっという間に」「またたく間に」は、初山 (2005) で分類されている類義表現のタイプの中で「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる (前景化・焦点化の違い)」のものであると考えられる (詳しくは後述)。

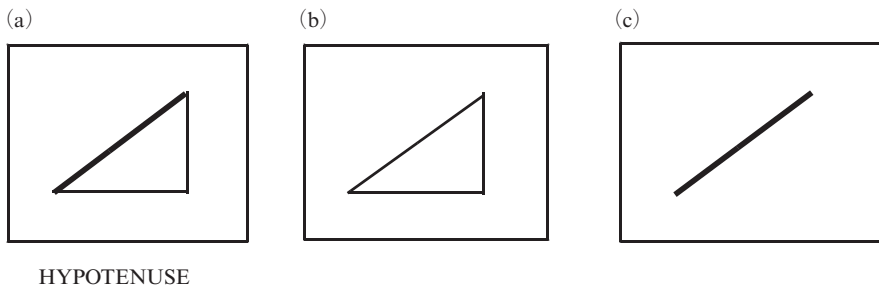
それでは、ここで本稿で用いる「ベース (base)」と「プロファイル (profile)」という用語について簡略に説明する。これらは Langaker (1987,1988) の用語で、辻 (2002) は、次のように解説している。

認知文法は、百科事典的意味論の立場をとり、ことばの意味は複数の認知領域において記述される。ある特定の認知領域においても、全ての構造が等しく扱われるのではなく、焦点化され、際だちの大きいプロファイルと呼ばれる部分と、そのプロファイルの背景的要素として機能するベースに分かれる。

例えば、直角三角形の「斜辺」という表現の意味記述においては、空間という認知

領域における形状が最も重要である。この領域において、想起される概念内容の全体、すなわち直角三角形の形状全体がベースとなる。というのは、「斜辺」の意味を規定する場合には、1本の直線のみを想起するだけでは不十分であり、直角三角形という3本の直線からなる形状全体が概念化されなければならないからである。しかし、「斜辺」ということばは、当然この形状全体を指し示すわけではない。言語使用者は、この形状全体を心に思い浮かべたうえで、その部分構造である斜めの直線に注目し、その部分のみに言及する場合の表現が「斜辺」である。このように、特定の言語表現が直接指し示す部分をプロフィールと呼ぶ。(p.236、下線は引用者)

<図1> Langacker (1988:59)



3. 「たちまち、あっという間に、またたく間に」の意味分析

本節では先行研究を踏まえ、「たちまち」「あっという間に」「またたく間に」のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

3.1. 先行研究

先行研究として国広(1982)、飛田・浅田(1994)、葉(2004)などがある。それぞれの記述には参考すべき点も多いが、いずれも各語の個別の意味と相互の意味の類似点・相違点の記述が十分とは言えない。

一方、李(2007)は葉(2004)を踏まえて、「たちまち」と「あっという間に」についてさらに詳しく分析している。しかし、あくまでも「たちまち」と「あっという間に」を比較分析したものであるため、「またたく間に」との関連性については依然として不明確なままになっている。

そこで、本稿では「またたく間に」を含めた3語について比較分析を行い、それぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明確にしていく。

3.2. 3語の類似点 (同一のベース)

上にも述べたように、以下では「ベース」と「プロフィール」の概念を用いて3語の類似点・相違点を明らかにする(注2)。

まず、3語が類義関係にあることを以下の例に基づき、確認する。

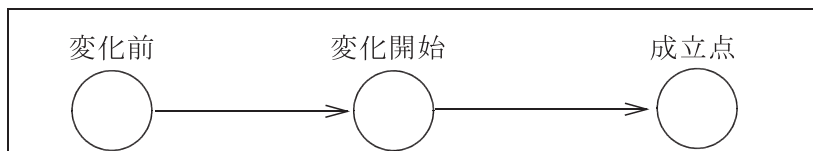
- (1) 開業一カ月もすると荻野医院の待合室はたちまち (あつという間に/またたく間に) 患者で溢れた。(渡辺淳一『花埋み』)
- (2) 三十棟ものアパート群に住む数十人の子供たちが、皆私をデミアン、デミアンと呼んでなついてくれたので、私の名前は、あつという間に (たちまち/またたく間に) この大きなアパート全体に知れ渡ってしまった。(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』:341)
- (3) 1936年6月30日に出版された「風と共に去りぬ」はまたたく間に (あつという間に/たちまち) ベストセラーとなり、
(<http://homepage2.nifty.com/hyoshioka/newpage08-1.htm>)

以上の例は、ある事柄(行為や出来事、状態など)の変化について述べていると考えられる。また、その事柄の変化というのは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると言える。

例えば、例(1)は「患者で溢れる状態が実現するまで」の変化が問題となっており、またそれは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると考えられる。例(2)は「私の名前がアパート全体に知れ渡るまで」の変化が問題となっており、またそれは、話し手にとって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると解釈することができる。例(3)も「ベストセラーとなるまで」の事柄の変化が問題となっており、またそれは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると言える。

以上のことから、3語は<話し手が><ある事柄に対して><短時間で成立・実現する><ととらえる>ことを表すという類似点(同一のベース)を持っていると考えられる(注3)。なお、事柄(動き・出来事・状態など)の変化(進行)は時間軸にそって現れると考えられ、次の<図2>のように示すことができる。

<図2><事柄の変化(進行)>(同一のベース)(注4)



3.3. 「たちまち」と「あっという間に」

この節では、「たちまち」と「あっという間に」を取りあげ、2語の意味の類似点・相違点を明らかにする。

まず、「たちまち」についての例を見てみよう。

- (4) 「少ししみますよ」言うやいなや、傷の真上にさっと濃アルコール液をふきつける。
「痛っ!!」たちまち (×あっという間に) 男は眉を顰め、(渡辺淳一『花埋み』)
- (5) この頃の医者困るのは、待合室が、老人の社交場になったことだ、と太郎は思う。七十歳以上は医療費が全額タダになったとかで、主におばあさん連はちよつとどこかが悪いと、たちまち (??あっという間に) 医者にやって来る。(曾野綾子『太郎物語』)
- (6) 彼はそつと、あたまをもちやげてみたかった。しかし、こわくって、とてもそんなことなぞできなかつた。が、彼は目をあけて、あたりのようすを見ようと思ひ、少し首をずらそうとした。そうしたら、彼はたちまち (??あっという間に)、くらくらつと、なつてしまった。(山本有三『路傍の石』)

まず、以上の例は、ある事柄(行為や出来事、状態など)の変化について述べていると考えられる。また、その事柄の変化というのは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると言える。

さらに、以上の例からは「変化の開始前の状況に注目する」という意味も読み取れる。例えば、例(4)は「眉を顰める」という事柄が短時間で実現したことを表しているが、それは「濃アルコール液をふきつける」という先行する行為から、短時間で起きた事柄であるというように解釈することができる。また、例(6)は「くらくらつとなる」という事柄が短時間で実現したことを表しているが、それは「少し首をずらそうとする」という先行する行為(状態)から、短時間で起きた事柄であるというようにとらえられる。

以上のことから、「たちまち」の意味は<話し手が><ある事柄に対して><変化前(先行の事柄)の状況に注目し><短時間で成立・実現する><ととらえる>というように記述することができる。

続いて、「あっという間に」を取りあげる。以下の例を見てみよう。

- (7) お味の方はおいしかったようです。あっという間に (×たちまち) 食べ終わって
いました。(http://blog.so-net.ne.jp/patarin/archive/200611)
- (8) 庄九郎は火の出るように攻めたてた。クーデターというのは、あっというまに
(×たちまち) 仕遂げなければ、水の入るものだ。「もみつぶせつ、もみつぶせつ」

と、最前線を駆けまわって指揮をした。(司馬遼太郎『国盗り物語』)

- (9) タイショーさんこんにちは。修学旅行帰ってきました。京都では同志社や立命館に通っている卒業生たちと集まって楽しいひとときを過ごしました。帰ってきたらあつという間に (??たちまち) 終業式となりました。早いものですね。

(<http://www5b.biglobe.ne.jp/~simomac/bbs1/index9.html>)

以上の例は、ある事柄(行為や出来事、状態など)の変化について述べていると言える。また、その事柄の変化というのは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると考えられる。さらに、以上の例からは「変化の結果に注目する」という意味も読み取れる。例えば、例(7)は「食べ終わるまで」の事柄の成立が問題となっており、またそれは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられているが、「(例えば)いつ食べ終わったか分からないくらい早かった」というように、「変化の結果に注目している」ととらえることができる。例(9)も「終業式を迎える(つまり、事柄が実現する)までの時間」が非常に短いものとしてとらえられているが、「(例えば)気がついたらもう終業式だった」というように、「変化の結果に注目している」ととらえることができる。

以上のことから、「あつという間に」の意味は<話し手が><ある事柄に対して><変化の結果(成立点)に注目し><短時間で成立・実現する><ととらえる>ことを表すと記述することができる。

それではここで、「たちまち」と「あつという間に」の意味の相違点(プロファイルの違い)について検討する。

まず、上の例(4)～(6)において、「たちまち」を「あつという間に」に置き換えてみるとこの文脈では非文か不自然な文になる。それは先に見たように、「たちまち」は「問題となる事柄の変化前の状況に注目する」場合に用いられるのに対して、「あつという間に」は「問題となる事柄の変化の結果に注目して述べる」場合に用いられるからであると考えられる。

このことを例文に基づいて説明すると、例(4)～(6)は問題となる事柄の変化前の状況(先行する事柄)、つまり「眉を顰める」前の「濃アルコール液をふきつける」、「医者がやって来る」前の「どこかが悪い」、「くらくらっとなる」前の「首をそらそうとする」という事柄に注目して述べている文であり、「たちまち」が用いられている。この場合、「あつという間に」が用いられない(あるいは、不自然な文になる)のは「問題となる事柄の変化の結果」に注目するということが考えられないからである。つまり、「眉を顰め始めて顰め終わるまでの行為が、短時間で実現する」、「くらくらっとなり始めてくらくらっとなり終わるまでの状況が、短時間で実現する」というような解釈ができない

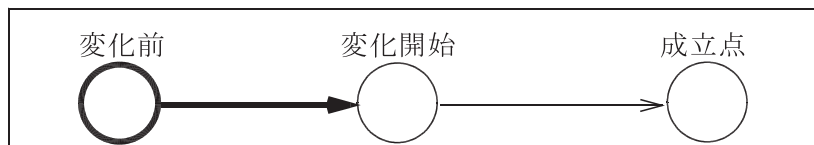
からである。

今度は逆に例(7)～(9)のように、「あっという間に」を「たちまち」に置き換えてみると非文か不自然な文になるケースを見てみよう。

これらの例は、「問題となる事柄の変化の結果に注目し、(その事柄が)短時間で実現する」というようにとらえられ、「あっという間に」が用いられている。上でも述べたように、例(7)は「食べ終わるまで」の事柄の変化の成立が問題となっており、またそれは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられているが、「(例えば)いつ食べ終わったか分からないくらい早かった」というように、「変化の結果」に注目していると解釈することができる。この場合、「たちまち」が用いられない(あるいは、不自然な文になる)のは、文の状況から分かるように「変化前の状況(先行の事柄)に注目する」ということが想定しにくいからである。

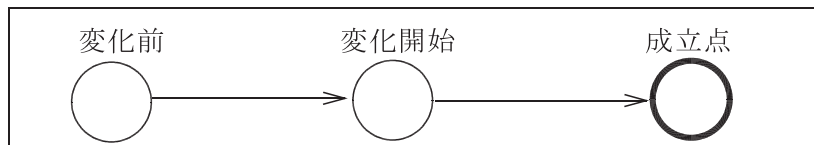
以上、「たちまち」と「あっという間に」の相違点について見てみたが、このことを図で示すと次のようにまとめられる。

<図3>-「たちまち」<事柄の変化(進行)>



→「変化前の状況(プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

<図4>-「あっという間に」<事柄の変化(進行)>



→「変化の結果(プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

ここで、「たちまち」と「あっという間に」が両方用いられる例を見てみよう。

- (10) 船体の重さは、進水台の上にすべてのしかかってくるので、万が一松材が分離してしまったら、たちまち (あっという間に) 船体は横転してしまう。それを防ぐためには、決して曲ったり折れたりしないような精度の高い、しかも思いきり太いボルトを使わなければならないのだ。(吉村昭『戦艦武蔵』)

上の例は「船体が横転するまでの時間が短い」というようにとらえられ、どちらも用

いることができる。ただし、「あつという間に」は「問題となる事柄の変化の結果に注目する」場合に用いられることから、「船体が横転し始めて、完全に横転するまでの時間が短い」というように解釈することができる。

それに対して、「たちまち」は「問題となる事柄の変化前の状況に注目する」場合に用いられることから、「松材が分離したら、間をおかずに横転する」というように「先行の事柄から横転し始めるまでの状況」に注目される。

3.4. 「あつという間に」と「またたく間に」

続いて、「あつという間に」と「またたく間に」を取りあげる。まず、以下の例を見てみよう。

- (11) 典型的なじんましんでは、蚊に刺されたときのような盛り上がった発疹（膨疹）がまたたく間に大きく広がっていきます。

(http://www.miyake-naika.or.jp/03_katei/otona_jinmashin.html)

- (12) 美は執念。思いさえあれば、今どんなに醜くても、何歳でも、必ず美しくなれる。美の仕事歴 40 年、またたく間に小顔をつくる顔筋マッサージのクリエイターが、独自の美容理論、メソッド、人生とライフスタイルを語る。

(<http://www.jbook.co.jp/p/p.aspx/3089701/s/>)

以上の例は、ある事柄（行為や出来事、状態など）の変化について述べていると言える。また、その事柄の変化というのは、話し手によって「短時間で実現するもの」としてとらえられていると考えられる。さらに、上の例からは「変化そのもの（過程）に注目する」という意味も読み取れる。例えば、例（11）は「広がっていきます」という表現からも分かるように「過程」に注目しているととらえられる。例（12）の場合も、文の状況から分かるように、マッサージをしているという状況の中で、「短時間で小顔を作り上げていく」というように「過程」に注目するという意味を読み取ることができる。

以上のことから、「またたく間に」の意味は＜話し手が＞＜ある事柄に対して＞＜変化そのもの（過程）に注目し＞＜短時間で成立・実現する＞＜ととらえる＞ことを表すと記述できる。

続いて、「あつという間に」との違いについて検討する。まず、例（13）～（15）を見てみよう。

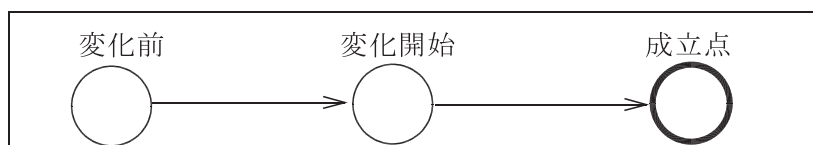
- (13) 私は家へ帰ってそのことを父に告げると、またたく間に（??あつという間に）顔色を変えた。（三浦哲郎『忍ぶ川』、一部修正）

- (14) 気がついたらあっという間に (?? またたく間に) 演奏が終了していた。(作例)
- (15) 大阪から戻って翌朝朝一で上海へ。またもや寝坊。最近は本当に朝が起きられない。昼過ぎには上海の事務所へ。片道7時間の大出勤。
1週間上海にいない間に あっという間に (?? またたく間に) 涼しくなっていた。
(<http://blog.livedoor.jp/nsbharat/archives/2005-10.html>)

以上の例は「またたく間に」を「あっという間に」に、「あっという間に」を「またたく間に」に置き換えると非文か不自然な文になる。例(13)において「あっという間に」が用いられない(あるいは、不自然になる)のは、文の状況から分かるように、「変化の過程」に注目しているのであって、「変化の結果(成立点)」に注目するということが考えられないからである。逆に、例(14)、(15)のように、「変化の過程」が想定しにくい場合は「またたく間に」は用いられない(あるいは、不自然になる)。つまり、この場合「気がついたら」、「1週間上海にいない間に」という表現からも分かるように、「変化の過程」に注目するということが考えられない。「変化の過程」に注目するためには「当該の状況に置かれていなければならない」と考えられる。

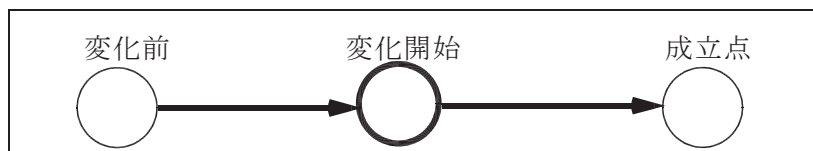
以上、「あっという間に」と「またたく間に」の相違点について見てきたが、このことを図で示すと以下のようにまとめられる。

<図5 (= 4) > - 「あっという間に」 <事柄の変化(進行)>



→ 「変化の結果(プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

<図6 > - 「またたく間に」 <事柄の変化(進行)>



→ 「変化の過程(プロフィール)」に注目して述べる場合に用いられる。

4. まとめ

以上、本稿では「たちまち」「あっという間に」「またたく間に」を取りあげ、認知言語学の枠組みから、3語の意味の類似点・相違点を明らかにした。以下、分析結果を簡

単にまとめておく。

まず、3語の個別の意味の分析結果をまとめると次のようになる。

「たちまち」

＜話し手が＞＜ある事柄に対して＞＜変化前（先行の事柄）の状況に注目し＞＜短時間で成立・実現する＞＜ととらえる＞

「あっという間に」

＜話し手が＞＜ある事柄に対して＞＜変化の結果（成立点）に注目し＞＜短時間で成立・実現する＞＜ととらえる＞

「またたく間に」

＜話し手が＞＜ある事柄に対して＞＜変化そのもの（過程）に注目し＞＜短時間で成立・実現する＞＜ととらえる＞

次に、3語の意味の類似点・相違点については、以下のようにまとめられる。

「類似点（同一のベース）」

＜話し手が＞＜ある事柄に対して＞＜短時間で成立・実現する＞＜ととらえる＞

「相違点（プロファイルの違い）」

「たちまち」

→「変化前の状況（プロファイル）」に注目して述べる場合に用いられる。

「あっという間に」

→「変化の結果（プロファイル）」に注目して述べる場合に用いられる。

「またたく間に」

→「変化の過程（プロファイル）」に注目して述べる場合に用いられる。

なお、ここで言う「プロファイルの違い」というのは、相対的な程度の差によるものとして考えられる。つまり、プロファイルされない部分にはまったく注目しないということではない（注5）。

注

注1 河上（1996）は「カテゴリー化」について次のように述べている。

私たちは日常生活において、様々な事物を知覚し、経験する。その量は膨大なものであり、一

「たちまち、あつという間に、またたく間に」の意味分析

一つを記憶にとどめようとする大変なことになる。しかし、私たちはそれらの事物を効率的にグループ分けすることができる。つまり私たちには、事物から何らかの類似性や一般性を抽出することで、事物間にあるまとまりを認識し分類することのできる能力が備わっていると考えられる。このような事物をグループにまとめる認識上のプロセスを、一般的にカテゴリー化という。(河上 (1996:27))

また、言語の様々な側面に関するカテゴリー化の問題について、プロトタイプ論の見方を採用したことを認知言語学の根幹をなす特徴の一つとしてあげている。

さらに、プロトタイプを「カテゴリーの成員の中でもより中心的で、そのカテゴリーを代表すると思われるもの(河上 (1996:209))」と定義した上で、次のように述べている。

そして私たちが事物をカテゴリー化する場合、そのプロトタイプを核とし、その周りにさまざまな成員を位置づけることで、全体を構造化しているとみなす。この考えに基づけば、カテゴリーの成員は、その成員らしさという点では一様ではなく、中にはプロトタイプに近いものもあれば、それとはかけ離れた周辺のものがあったり、成員間で段階性がみられることになる。(河上 (1996:32))

注2 この3語にはいわゆる文体差も認められるが、今回の考察では特に考慮しないことにする。

注3 この場合の「時間」というのは「期間」も含め、広い意味として考える。

注4 変化開始、成立点は必ずしも明確に区分できるものではない。例えば「泣き出す」という事柄は「変化開始と成立点」が同時的であると考えられる。

注5 初山 (2005:582) は「やっと」と「ようやく」の分析の中で、「ベースの中でプロファイルされない部分は、完全に背景化されているというよりもプロファイルされた部分より相対的に際だちが低いと考えるべきであろう」と述べている。

参考文献

李澤熊 (2007) 「『あつという間に』と『たちまち』の意味分析—ベースとプロファイルの観点から—」, 『日本研究』第7号, 高麗大学校 (韓国), pp.143-158.

河上誓作 (1996) 『認知言語学の基礎』, 研究社出版.

国広哲弥 (1982) 「たちまち・スグニ・キュウニ」, 国広哲弥編『ことばの意味3』, 平凡社, pp.146-153.

辻幸夫 (2002) 『認知言語学 キーワード事典』, 研究社.

飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』, 東京堂出版.

初山洋介 (2005) 「類義表現の体系的分類」, 『日本認知言語学会論文集』第5巻, 日本認知言語学会,

pp.579-583.

葉懿菅 (2004) 「『たちまち』と『あつという間に』の意味分析」, 『日本語・日本文化研究』第14号, 大阪外国語大学日本語講座, pp.111-118.

Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol.1*, Stanford: Stanford University Press.

Langacker, R. W. (1988) "A View of Linguistic Semantics." In Brygida Rudzka-Ostyn, ed., *Topics in Cognitive Linguistics*. pp.49-90. Amsterdam: John Benjamins.

例文出典

- (1) CD-ROM 版『新潮文庫の100冊』(1995)
- (2) 検索エンジン google (<http://www.google.co.jp/>)
- (3) 検索デスク SEARCH DESK (<http://www.searchdesk.com/>)

付記

この論文は2007年11月24日に松本市・信州大学で行われた、日本言語学会第135大会での発表内容に加筆・修正を加えたものである。